

超高齢看護学研究演習  
Research Seminar on Nursing in Super Aged Society

開講年次：1年次（通年） 単位数：2単位

- |                       |                      |
|-----------------------|----------------------|
| ○原 祥子：地域・老年看護学講座教授    | 内田宏美：基礎看護学講座教授       |
| 津本優子：基礎看護学講座教授        | 小笹美子：地域・老年看護学講座教授    |
| 若崎淳子：臨床看護学講座教授        | 福田誠司：臨床看護学講座教授       |
| 橋本龍樹：臨床看護学講座教授        | 出口 顯：法文学部社会文化学科教授    |
| 稲垣卓司：教育学部心理・発達臨床講座教授  | 多田敏子：特任教授(元徳島大学教授)   |
| 小林祥泰：特任教授(前島根大学学長)    | 塩飽邦憲：特任教授(前環境予防医学教授) |
| 小林裕太：特任教授(元基礎看護学講座教授) | 福間美紀：基礎看護学講座准教授      |
| 小黒浩明：医学部附属病院神経内科講師    |                      |

### 1. 科目の教育方針

「超高齢看護学」は、これまで培ってきた高齢看護学や健康長寿を支援するヘルスプロモーションの専門的取り組み等による知見を基盤として、新たに構築しようとする専門分野である。そのため、多角的な文献の分析はもとより、人々の生活の場で生成される健康課題の中から、超高齢看護学が取り組むべき研究課題を予見していくことが重要となる。したがって、本演習では高齢者へのケアを実践している場でのフィールドワークを重視した内容とする。また、国際的視野の涵養とともに、課題の国際的な意義を検討するために、島根大学協定校での研修等を組み込む。

以上の方針に基づき、自己の研究的関心に即した多様なフィールドワークと文献の多角的分析をとおして、人々の生活の場で生成する健康課題との関連から自己の研究課題に取り組むことの意義を明確にし、超高齢社会における様々な健康課題の解決に貢献し得る、新たな看護ケア方法や看護実践モデル・理論の開発並びに健康長寿を支える新たなケアシステムの開発を目指した研究アプローチを追究する。

### 2. 教育目標

- 1) 参加型看護研究及び行動モデルとその適用について理解できる。
- 2) フィールドワークと文献の多角的分析をとおして、人々の生活の場で生成する健康課題を確認し、超高齢看護にかかる健康課題を明確にすることができる。
- 3) フィールドワークの成果とプロセスをまとめて、適切に発表できる。
- 4) 超高齢看護にかかる健康課題と自己の研究的関心を融合させ、超高齢看護学の構築に寄与し得る研究課題を焦点化することができる。
- 5) 自己の研究課題に対応した研究デザインを定め、適切な倫理的配慮のうえで研究を遂行するための方法、分析方法を探索し、論理的・一貫性のある研究計画を検討できる。

### 3. 教育の方法、進め方、評価等

- 1) 2単位 60時間の通年科目として、演習とフィールドワークにより展開する。
- 2) フィールドワークを経て研究計画の立案に至るプロセスを順当に辿れるよう、以下の流れで行う。
  - (1) 前半の約 1/3 : フィールドワークを効果的に実施するための知識の習得と準備
  - (2) 中盤の約 1/3 : フィールドワーク・まとめ
  - (3) 後半の約 1/3 : 博士論文で取り組む研究課題の明確化と研究計画の検討
- 3) フィールドワークの進め方
  - ・フィールドワークは島根大学協定校とその所在地域及び島根大学医学部が研究フィールドとしている医学部附属病院、大田総合医育成センターや自治体・関係機関を中心に実施する。
  - ・フィールドは学生が自己の研究的関心に即して選定し、そのフィールドと関係の深い教員の指導・支援の下でフィールドワークを実施する。
  - ・準備したフィールド以外の場を学生自身が開拓して実施する場合は、指導教員（主研究指導教員・副研究指導教員・研究指導補助教員）が指導・支援を担当する。
- 4) フィールドワークの取り組み状況、プレゼンテーションの内容、討論への参加状況等により主研究指導教員が総合的に評価する。

### 4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。

#### 【参考文献】

- 1) プラニー リィアムプットーン編（木原雅子，木原正弘訳）：現代の医学的研究方法－質的・量的方法、ミックスメソッド、EBP－，メディカル・サイエンス・インターナショナル，2012.
- 2) John W. Creswell（操華子・森岡崇訳）：研究デザイナー－質的・量的・そしてミックス法，日本看護協会出版会，2007.
- 3) 安西祐一郎：問題解決の心理学，中央公論社，東京，1985.
- 4) Tosteson DC : New pathway in general medical education. *New Eng J Med* 322: 234-238, 1990.
- 5) 佐藤隆博：構造学習法の入門，明治図書，東京，1996.
- 6) 塩飽邦憲，他：概念地図を用いた問題解決能力の教育評価，*医学教育* 34: 385-390, 2003.
- 7) Sundquist J, et al. : Neighborhood linking social capital as a predictor of psychiatric medication prescription in the elderly: a Swedish national cohort study. *Journal of Psychiatric Research* 55: 44-51, 2014.

5. 教育内容

回	月/日 (時限)	内 容	担当
1	4/12 18:30 ~20:00	ガイダンス 学生の看護実践からの課題候補の抽出	原 祥子
2 3	4/19 8:30 ~12:05	課題解決型研究の基礎的な知識と手法の理解と課題の明確化 ・ 問題解決技法 Problem-solving method ・ 概念地図法 Concept mapping method	塩飽邦憲
4	4/19 13:00 ~14:40	健康信念モデル Health Belief Model などの行動モデルの超 高齢看護学における適用可能性	小笹美子 塩飽邦憲
5	4/19 14:55 ~16:35	参加型看護研究 Participatory nursing research の意義	内田宏美
6 7 8	5 月	フィールドワークの準備 ・ 国内外のフィールドワークの場所と方法の決定 ・ 活動計画の立案：目標の設定、具体的方法とスケジュール、 活動計画の倫理性の検討、利用可能な資源（システム・人 材を含む）等の検討	科目担当 全教員
9 10 11 12 13 14 15 16	6 月 7 月 8 月	フィールドワークの実施 [対応教員] ・ 協定校での研修：ルンド大学（スウェーデン） [小林 <sup>裕</sup> ・塩飽] ・ 医学部附属病院及び関連病院 [福田・小黒] ・ 大田総合医育成センター [橋本] ・ 老人看護 CNS が活動する松江市立病院、松江赤十字病院等 [原] ・ がん看護 CNS が活躍する松江赤十字病院等 [若崎] ・ 島根県内の自治体 [小笹] ・ 島根大学疾病予知予防プロジェクト [福間] ・ 島根まめネット [津本] ・ 島根大学研究機構戦略的研究推進センター『萌芽研究部門』 プロジェクト（工・看護・医・福祉の異分野融合研究）[原] ・ 島根県看護協会医療安全ネットワークを活用したアクシ ョンリサーチ [内田・津本] ・ その他、適宜 [稲垣・出口・多田・小林 <sup>祥</sup> ]	科目担当 全教員

17 18	<u>9/12(木)</u> <u>13:00</u> ~ <u>18:00</u>	フィールドワーク型研究活動の成果発表	科目担当 全教員
19 20	10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の研究課題の明確化</li> <li>・各種モデルを用いて設定した課題に即した仮説設定</li> </ul>	※指導教員
21 22	11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究課題に関する研究デザインの検討</li> <li>・研究方法の検討</li> </ul>	※指導教員
23 24 25 26	12月 1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データ分析方法の探索</li> <li>・研究倫理の検討</li> </ul>	※指導教員
27 28	2月	研究計画全体の構造化	※指導教員
29 30	<u>3/6(金)</u> <u>13:00</u> ~ <u>18:00</u>	研究計画の発表	科目担当 全教員

※指導教員の専門性、支援可能な分野、方法等についての詳細は、『超高齢看護学特別研究』のシラバスに記載している「5. 研究指導教員と指導の概要」を参照のこと。